

## 第 20 回有機化学系教科担当教員会議 議事録

1. 日時：2025 年 11 月 1 日（土）13:00～17:05
2. 場所：広島県情報プラザ 多目的ホール  
〒730-0052 広島市中区千田町 3－7－4 7
3. 本年度世話人：末田 拓也（広島国際大学）、町支 臣成（福山大学）、  
重永 章（福山大学）、松野 研司（安田女子大学）
4. 議題：『いかにして有機化学嫌いの学生を減らし、卒業研究を活発化させるか？』
  - (1) 開会の挨拶 世話人代表 松野 研司（安田女子大学）
  - (2) 主旨説明 松野 研司（安田女子大学）
  - (3) 講演Ⅰ  
演題：「武蔵野大学薬学部における有機化学講義～低学年の基礎知識修得に向けて～」  
講演者：穴田 仁洋 先生（武蔵野大学）  
座長：末田 拓也（広島国際大学）
  - (4) 次世代シンポジウム運営委員会（旧若手教員会議）報告  
演題：「学生に有機化学の魅力を伝えるために何ができるか？～若手教員からの視点～」  
講演者：南條 毅 先生（京都大学）  
座長：松野 研司（安田女子大学）
  - (5) 講演Ⅱ  
演題：「最先端創薬モダリティをどのように教育しているのか？」  
講演者：王子田 彰夫 先生、進藤 直哉 先生（九州大学）  
座長：松野 研司（安田女子大学）
  - (6) 講演Ⅲ  
演題：「私大 6 年制薬学部で卒業研究を充実させるために」  
講演者：古田 巧 先生（京都薬科大学）  
座長：重永 章（福山大学）
  - (7) 講演Ⅳ「研究型全 6 年制 大阪大学薬学部の取り組み」  
講演者：有澤 光弘 先生（大阪大学）  
座長：町支 臣成（福山大学）
  - (8) アンケート集計報告 広島国際大学 末田 拓也

(9) 次回会議の世話人のご紹介とご挨拶

北里大学 牧野 一石 先生 (代表)

長光 亨 先生

藤井 秀明 先生

慶應義塾大学 宮本 和範 先生

熊谷 直哉 先生

(10) 閉会の挨拶 世話人代表 松野研司 (安田女子大学)

4. 会議報告

(1) 開会の挨拶 (13:00~13:05)

世話人を代表して、松野 研司 (安田女子大学) より開会の挨拶があった。

(2) 今回の主旨説明 (13:05~13:10)

世話人の松野 研司 (安田女子大学) より、これまでの本会議の経緯、および今回のテーマ『いかにして有機化学嫌いの学生を減らし、卒業研究を活発化させるか?』を設定した意図と議論内容の説明があった。

(3) 講演 I (13:10~14:00)

演 題:「武蔵野大学薬学部における有機化学講義～低学年の基礎知識修得に向けて～」

講演者: 穴田 仁洋 先生 (武蔵野大学)

座 長: 末田 拓也 (広島国際大学)

有機化学は薬学における基本であり、他の薬学科目を理解する上でも有力なツールとなりうる科目であるものの、最も理解し難い科目の一つととらえている学生が多い。有機化学を理解するためには、直感的に論理的思考が発揮できるようになるまで何度も繰り返し練習することが重要であることをご指摘いただくとともに、武蔵野大学において実践されているユニークな低学年向け学修支援および有機化学講義の内容を紹介していただき、活発に参加者と意見交換があった。

(4) 次世代シンポジウム運営委員会 (旧若手教員会議) 報告 (14:00~14:30)

演題:「学生に有機化学の魅力を伝えるために何ができるか?～若手教員からの視点～」

講演者: 南條 毅 先生 (京都大学)

座長: 松野 研司 (安田女子大学)

現代の学生が有機化学に対して抱いている印象を、比較的最近まで学生であった若手教員の視点から分析していただくとともに、学生に有機化学の魅力を伝え、化学系薬学が活発になるために必要な取組みをご提案いただいた。有機化学が何の役に立つのか?を伝えるこ

とに皆腐心している実態が浮かび上がり、その理由として① 高校の勉強で有機化学を面白いと思う人口（比率）自体は実は今も昔も大して変わらないのではないかと、② むしろ大学（薬学部）に入学した後に有機化学を学習する意欲を保てないことが何よりの問題ではないかと、③ その要因として、社会への貢献がわかりやすい他分野（例えば情報・AI 分野）と比較して、今の有機化学が何を目標しているかわかりにくい、④ 有機化学の学習内容が昔からほとんど変わっていないため、特に研究志向の学生からは発展性が不明確な学問とされている可能性が指摘された。参加者一同、新たな視点でのご指摘に深く考えさせられた。また、昨年度のご提言に対するフォローアップをレビューしていただいた。

(5) 講演Ⅱ（14：30～14：50）

演題：「最先端創薬モデルティをどのように教育しているのか？」

講演者：王子田 彰夫 先生、進藤 直哉 先生（九州大学）

座長：松野 研司（安田女子大学）

昨年度の本会議でのご提言「最先端創薬に関する教育」という観点から、革新的な創薬モデルティに関する内容を授業に取り入れられている九州大学薬学部の取り組みを進藤先生よりご紹介いただいた。共有結合性阻害剤（TCI）、抗体薬物複合体（ADC）、遺伝子治療、細胞医薬、mRNA ワクチンも含めた核酸医薬などの具体的な授業内容をご紹介いただき、各大学での横展開が期待されるご講演となった。

(6) 講演Ⅲ（15：00～15：50）

演題：「私大 6 年制薬学部で卒業研究を充実させるために」

講演者：古田 巧 先生（京都薬科大学）

座長：重永 章（福山大学）

京都薬科大学の共学プログラムをご紹介いただき、私大 6 年制薬学部では国家試験対策や成績下位者への対応など考慮すべき事柄は多いものの「私大 6 年制薬学部は薬剤師養成機関であり、研究とは縁遠い」とのステレオタイプを払拭し、学生が主体的に研究に取り組むように促すことの重要性をご指摘いただいた。特に（いわゆる）新設薬学部の教員にとって勇気づけられるご講演内容であり、会議終了後に多くの教員から意義深い講演であったとの感想が寄せられた。

(7) 講演Ⅳ（15：50～16：40）

演題：「研究型全 6 年制 大阪大学薬学部の取り組み」

講演者：有澤 光弘 先生（大阪大学）

座長：町支 臣成（福山大学）

2019 年に大阪大学薬学部を導入された研究型全 6 年制の教育プログラムは従来の 6 年制とは異なり、(1) 薬学という学問の発展、(2) 創薬の発展、(3) 医療の発展に貢献、を推進す

るため、全学生が研究時間を確保できるような工夫が取り入れられており、その内容をご紹介いただいた。昨年度末で完成年度を迎えられたことから、卒業生の進路先についてもご紹介があった。さらに、化学系薬学の卒業研究を活性化するために工夫されている内容を具体的に紹介していただいた。参加者からは、薬学教育における創薬研究人材育成のために必要な方策に関する問題提起など、将来を見据えた議論が活発になされた。

(8) アンケート集計報告 (16 : 40～16 : 55)

報告：末田 拓也 (広島国際大学)

本年度会議内容に即して実施した「6年制薬学部における卒業研究、及び研究環境」アンケート調査の集計結果が報告され、有機化学系研究室の卒業研究の実態が共有された。

(9) 次回会議の世話人のご紹介とご挨拶 (16 : 55～17 : 00)

次回会議の世話人代表 牧野 一石 先生 (北里大学) および世話人 宮本 和範 先生 (慶應義塾大学) より挨拶があった。

(10) 閉会の挨拶 (17 : 00～17 : 05)

世話人を代表して、松野 研司 (安田女子大学) より御礼と挨拶があった。

以上